

三菱電機第4次環境計画と技術開発への取り組み



東 健一*



星之内 進**

要 旨

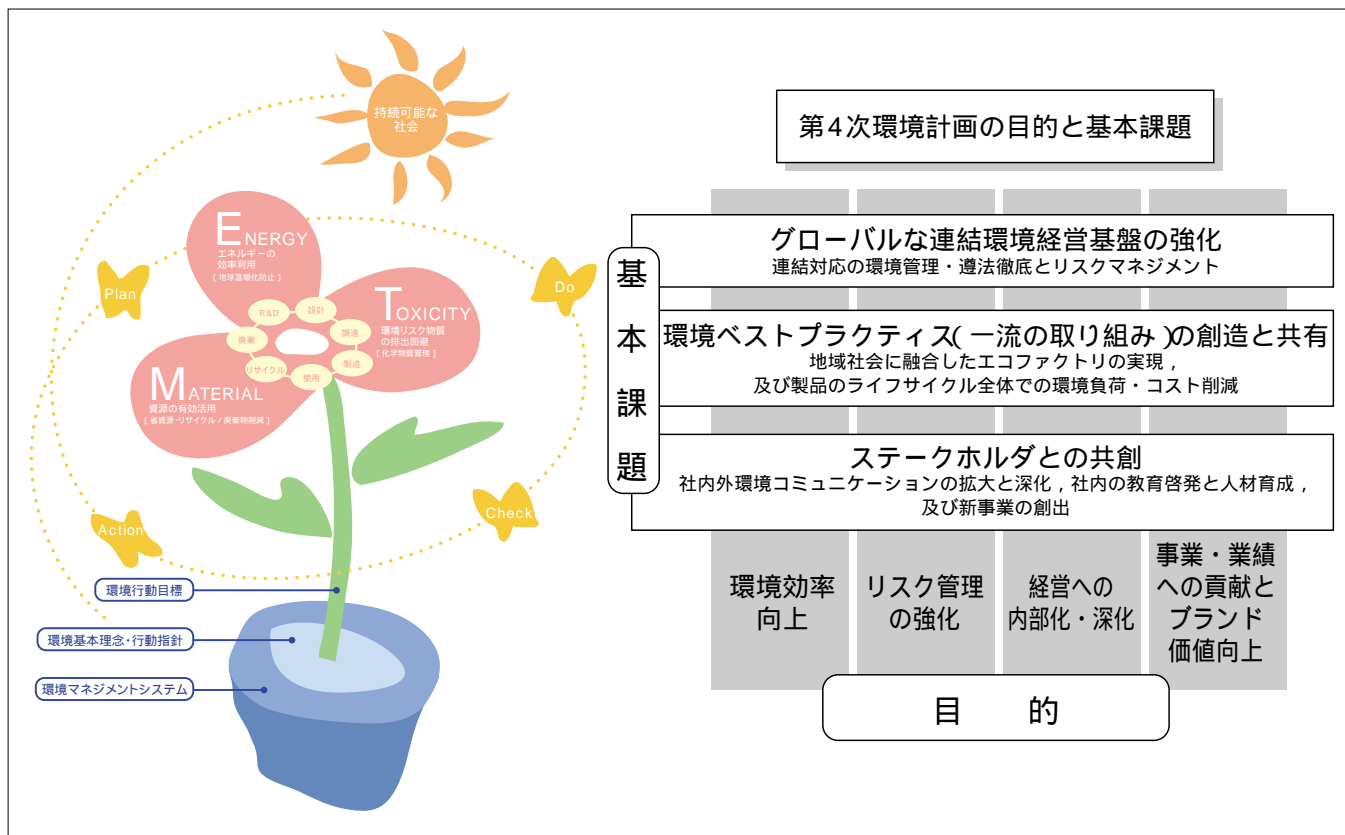
三菱電機グループは、1993年度から、環境に関する自主的な取り組みを“環境計画”として体系化し、生産プロセスだけでなくあらゆる企業活動に視野を広げ、環境負荷の低減に取り組んできた。

その間も、地球環境問題は予想を遥かに上回る規模と速度で拡大し、社会に多大なインパクトをもたらすことが年を追って鮮明になってきている。21世紀を迎えた今、人類は“持続可能な発展”の国際理念の下、新たな社会システムを創(つく)り上げるといふ壮大な変革に一歩を踏み出した。この変革を成し遂げるためには、科学技術や倫理、思想といった文化の根幹に係わる領域にまでパラダイムシフトをもたらすことが不可欠である。三菱電機グループは、社会と手を携えて、歴史的パラダイムシフトに挑戦していく。

今般、10年後の社会を、“独自性を活かして自律分散す

る各地域が、環境効率の高いネットワークを活用して連携・協調し、エコ・コミュニティの構築を目指していく社会”と見据え、三菱電機グループの社会との係わり方を検討した。この検討結果に循環型社会への政策誘導などに関する中期展望を加味して、2003年度からの3か年を対象とする“第4次環境計画”を策定した。

循環型社会における企業の責務は、独創的な環境技術の実用化により社会に不連続的な変革をもたらしつつ、社会との共創を基本として事業活動を発展させていくことである。第4次環境計画の目標達成も、同様に環境技術の発展に依存するところが大きい。この特集号では、三菱電機グループの環境技術への取り組みの一端を紹介している。本稿が21世紀初頭の環境経営や技術の在り方について議論を深める契機となれば幸いである。



環境計画の3つの柱と第4次環境計画の骨組み

三菱電機グループの環境への自主的な取り組みを体系化したものが環境計画であり、環境基本理念と行動指針、環境マネジメントシステム、環境行動目標の3つの柱から構成されている。第4次環境計画では、10年後の環境ビジョンや社会動向の中期展望に基づき、4つの目的を達成するために、3つの基本課題に挑戦する。